

非核の政府を求める石川の会 会報

非核・いしかわ

二〇一二年 年頭の「あいさつ」

代表世話人・井上英夫

新年、明けましておめでとうございます。

昨年、明けましておめでとうございます。三月の東日本大震災、原発事故が大きな衝撃でした。中東・アフリカの民主化の嵐の中で、リビアのカダフィ大佐等の独裁者、オサマ・ビン・ラディン等テロリストが殺害され、さらには金正日の死去と平和、戦争、核問題でも世界が揺れています。国内では、震災、津波、福島原発事故そして不況、なにより民主党の自民党政治により将来への希望が失われていく苦境の中、独裁者をもとめる風潮が醸成され、橋下大阪市長、河村名古屋市長等が、自由と競争の名のもとに登場しています。

まさに、軍事国家・ファシズム国家か、福祉国家・民主主義国家か、が問われていると思います。

こうした厳しい状況の中、非核の政府を求める石川の会は事務局、会報編集体制の刷新をはじめ活発な活動を展開しました。あらためて、皆様に敬意を表します。

事務局

〒920-0848

金沢市京町 28-8

石川民医連労働組合気付

Tel 076-251-0014

郵便振替

00760-0-15689

非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

花鳥風月

昨年七月に金沢で講演された秋葉忠利・前広島市長は、「平和市長会議が二〇〇四年に核廃絶『二〇二〇ビジョン』を発表したとき、最初に賛同を示してくれたのが全米市長会だった。なぜ都市が立ち上がるのか。都市は市民の声を代弁できる存在だからだ。国を動かす都市を作り、市民が市長を動かす。行政を巻き込んだ市民運動が二〇一〇年までの核兵器廃絶を実現できる原動力になる」と熱く語られた▲平和市長会議には現在、世界一五二カ国、五〇九二都市、日本では一〇八五自治体（六二・五％）が加盟しているが、石川県では五自治体（二五％）に留まっている。また当会の歴代世話人らの粘り強い働きかけにより、県内全ての自治体が「非核・平和宣言」を採択しているが、実際にどのような平和事業が行われているかは不明である▲非核・埼玉の会では一八年連続で県内自治体の非核平和行政アンケート（宣言内容、昨年度及び本年度予算額、本年度の平和事業計画、担当部署）を行い、集約結果を公表している。埼玉の会の先駆的な活動に学び、当会でも今年はずいぶん非核平和行政アンケートに取り組んでみたい。（か）

平和的生存権の意味

非核の政府の会は、核兵器を廃絶し、平和な自治体、国家を創ることが目標ですが、それは、まさに平和的生存権確立のための運動だと思います。

日本国憲法は、その前文において、「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」と平和的生存権を保障しています。

第一に、平和的生存権は、現代において憲法の保障する基本的人権が平和の基盤なしには存立し得ないことからして、全ての基本的人権の基礎にあつてその享有を可能ならしめる基底的権利です（名古屋高裁二〇〇八年四月一七日判決）。

つまり、人権保障は平和が大前提だということですが。しかし、同時に、人権が全ての人にあまりなく人権が保障された状態こそ真の平和だということも意味しています。したがって、いわゆる、自由権、そして社会権、参政権等すべての人権保障のための「不断の努力」こそ平和への道であるともいえるでしょう。

第二に、平和的生存権は、憲法の基本的精神や理念を表明しただけに留まらず国民の具体的権利で

す。二〇〇九年二月二四日、岡山地裁は、権利の中身として徴兵拒絶権、良心的兵役拒絶権、軍需労働拒絶権等を例示し、これらが具体的に侵害された場合は、損害賠償請求ができることも認めました。憲法改悪、特に九条の改悪の先には、徴兵制が狙われているのですから、この点は重要です。

第三に、前文は、「欠乏」から免れ、解放されることこそ平和的生存権の中身だと指摘しています。すなわち、欠乏＝飢餓や貧困こそ戦争の原因となり、戦争によって飢餓や貧困が生み出され加速化されるということでしょう。こうして第二次大戦を教訓とした平和的生存権の思想が、一方で、前文、九条となり、他方で二五条の生存権保障とりわけ社会保障権として日本国憲法に結実したわけです。

しかし、「欠乏」とりわけ貧困の原因は、戦争だけではありません。日本は、憲法九条のお陰で直接戦争はしていませんが、貧困は常に存在していたし、拡大しています。とくに八〇年代後半以降の、新自由主義経済による営利化・規制緩和と社会保障構造改革により、餓死、孤独死、介護殺人、そしてホームレス、非正規、派遣労働等が増大していますが、それは日本の貧困の象徴です。社会体制とりわけ強欲資本主義・大企業支配等が貧困を生みだしている根本原因でしょう。

その意味で、平和的生存権とはまた、餓死、貧困の根絶を目標とするものであり、憲法のいわゆる社会権保障によってこそ実現されるのです。その意味で、教育権（二六条）、労働権（二七条）、労働基本権（二八条）、財産権（二九条）とりわけ二五条の社会保障・社会福祉権の保障と一体となっていると

いうべきでしょう。

非核の政府づくりと生存権裁判

その意味で、非核の政府を求める私たちの平和的生存権保障の運動と「貧困」に対する福祉国家、そして人権としての社会保障確立のための運動は一体のものと言えるでしょう。

その、社会保障が、消費税の増税と一体となった社会保障改革で、また改悪されようとしています。ご存知のように、生活保護受給者が二〇五万人を超えました。生活保護制度の問題というより、大企業への要求にこたえ、非正規労働により「食べられない」低賃金労働者を増大させ、リストラ等で失業者を増大させてきたつけが出ていますのであり、被保護者がふえるのは最後のセーフティ・ネットである生活保護が悪いわけではありません。まして生活保護基準以下の人がたくさんいるのは、保護基準が高いわけではなく賃金が低すぎるということでしょう。ところが、最近の生活保護に対する攻撃は自立、就労支援、有期保護、そして基準の引き下げと口触りはいいのですが、激しいものがあります。

そうした攻撃の先鞭として二〇〇六年に生活保護の老齢加算が廃止されました。約一〇万円で生活していた人が二万円減額されたわけです。これに対して、全国九つの都府県で生存権裁判が提起され闘って来ました。その運動が勝ち取った大きな成果が、生活保護を国民の権利として認め、老齢加算の廃止処分は許されないとした福岡高裁判決です。その福岡高裁勝訴判決がピンチなのです。

昨年、最高裁が国・北九州市の不当な上告を認め、

二月二四日には口頭弁論を開くという決定をしてみました。

国・北九州市の主張が認められれば、生活保護基準のみでなく、それに連動して最低賃金、年金、医療、介護、保育等の社会保障・社会福祉、就学援助等教育の水準が引き上げられ、税金、保険料、一部負担等の国民負担が引き上げられるでしょう。

生活保護を受けている高齢者のみではなく、子ども、女性、若者、障害をもつ人、病気に苦しむ人、そしてすべての働く人々から社会保障・社会福祉、労働、教育の権利が奪われます。

皆さん、生存権裁判を支援してください。人々に生存権裁判の意味を訴えてください。署名を広げ、最高裁を包囲し、国・北九州市の上告を棄却させましょう。

署名用紙・チラシを同封しますので是非よろしく
お願いいたします。

(金沢大学地域創造学類教授)

〔署名用紙の送り先〕

生存権裁判を支援する全国連絡会会長 井上英夫

〒一六〇・〇〇二二新宿区新宿五・一一一

KATOビル3F

TEL〇三・三三三五四・七四三二

Fax〇三・三三三五四・七四三五

核兵器廃絶へのロードマップ

非核の政府を求める会常任世話人

原和人

二〇一〇年のNPT再検討会議は、一九〇の加盟国の中で一四〇カ国が核兵器禁止条約(NWC)に賛成し、核兵器の廃絶に向けて大きな一歩を踏み出しました。そして、最終合意文書にも、NWCの推進を提唱した潘基文国連事務総長の提案を支持し、「このNWCに関する提案に注目する」と明記されました。

核兵器使用の非人道性

もう一つ、核兵器使用の「非人道性」についての認識の前進がありました。NPTは、「核戦争の被害の甚大さや核戦争の可能性の低減の必要性」という論理で作られています。核兵器は非人道的な兵器であるとは規定していません。二〇一〇年のNPT最終文書では「核兵器のいかなる使用も壊滅的な人道的結果をもたらすことに深い懸念を表明し」という文言が加えられました。これは、スイス政府の功績であったと言われています。

三・一一の東日本大震災に伴い、福島原発の放射能汚染事故が発生しました。福島原発周囲は立ち入り禁止区域となり、津波被災者の救援すらできませんでした。広島・長崎の原爆投下の時は、放射能汚染の実態すらわからず、多くの人たちが救援に入り被爆しました。今回の福島の放射能汚染を考える時、一旦、核兵器が使われれば、医療機関や医療従事者を破壊してしまうだけではなく、救援にすら入れず、

被災者は見殺しにされてしまうこととなります。これほど、非人道的な兵器はありません。

二〇一〇年NPT再検討会議以降の動き

二〇一〇年のNPT再検討会議以降の核兵器廃絶への動きは、核兵器保有国の抵抗などにより、あまり前進していません。そういった意味で、昨年の国連総会での討議が注目されました。この国連総会に向けて、二〇一一年二月に Middle Powers Initiative (PPNW や IALANA などの国際NGOが参加)が、二〇一五年のNPT再検討会議に向けての提案を行いました。その内容は、二〇一一年の国連総会で、核兵器禁止条約の締結を準備する作業を始めることを決議する、二〇一一年前半に条約の案文作成に関する第一回準備会議を開催する、二〇一三年に第二回準備会議を開催する、二〇一四年に核兵器条約の案文の会合を開始するというものです。しかし、残念ながら、この提案は国連総会で取り上げられませんでした。二〇一五年のNPT再検討会議で、核兵器廃絶に向けての確かなロードマップを確認するためには、待ったなしの状況です。

それでも、二〇一一年の第六六回国連総会では、『核兵器の廃絶を規定する核兵器条約の早期締結をもたらす多国間交渉を開始することによって、その義務をただちに履行することを要求する』というマレーシア提案が一二〇カ国の賛成で決議されました。この決議は、二〇一〇年と比べて七二・三%から七三%へとわずかですが賛成国が増えていきます。日本が提出した「核兵器完全廃棄に向けた共同行動」の提案は、アメリカなど核兵器国を含めて九五カ国が共同提案国となり一六九カ国が賛成しま

したが、その内容は「究極的廃絶論」の立場に立ち、NWCの早期交渉開始には言及していません。

この国連総会が開催されている間に素晴らしいニュースが飛び込んできました。一月終わりに開催された国際赤十字委員会(ICRC)の総会で、人権の立場から核廃絶を目指す決議(注)が反対もなく可決されたというニュースです。

核兵器廃絶国際キャンペーンの推進

IPPNW(核戦争防止国際医師会議)は、核兵器禁止条約(NWC)の交渉の早期開始に向けてICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)を推進しています。二〇一〇年にスイスのバーゼルで開催されたIPPNW総会においても、創造的なICAN運動をすすめようと訴えられました。これを、日本の私たちの課題に具体化すると、まず政府(自治体)、政党、議会、議員など、あらゆる指導者に働きかけることです。二〇一一年一月に開催された「核戦争に反対する医師・医学者のつどい」では、国会議員を招いてシンポジウムを開催しました。次に、あらゆる諸組織に訴えることです。今回の国際赤十字委員会のこの運動への参加は、これらの働きかけの成果です。日本赤十字社にも働きかけましょう。また、あらゆる市民に学習会や講演会への参加を訴え、署名活動など、多様な活動を組織することも必要です。そして、核兵器の廃絶を願う諸組織が共同して、その推進センターを作って活動することも大切です。

二〇一五年のNPT再検討会議に向けた準備会議が今年の春に開催されます。潘基文国連事務総長は、昨年一〇月東西研究所がニューヨークで開催し

た「核軍備撤廃会議」で、以下のように発言しました。「今日からちようど一週間ののち、世界は人類家族の七〇億人目の新しいメンバーを迎えることになる。七〇億人目のその子は、果たしていかなる未来を持つのであろうか。われわれは明日の世界が今日、われわれが下す決定により形作られることを知っている。核兵器なき世界は一つの具体的可能性である。七〇億の人々が平和で安全に暮らすことができるために、その夢を実現しようではないか」。

(石川勤労者医療協会理事長)

《編集部より》国際赤十字委員会の決議要旨を本紙次号に掲載します。

全ての中学校と市立図書館に

「はだしのゲン」 英語版を

反核医師の会とプロジェクトゲン連名で

金沢市長及び金沢市教育長に申入れ

核戦争を防止する石川医師の会からの要請により、金沢市教育委員会が金沢市内の小中学校図書室での「はだしのゲン」の所蔵状況と寄贈希望校を調査したところ、下表のような結果になりました。

「はだしのゲン」(日本語版)を所蔵している学校数も多く、寄贈希望校も当初の予想を大きく上回ったため、第一回は「はだしのゲン」を所蔵していない、寄贈を希望された小学校(二〇校)、中学校(二校)を優先して寄贈しました。一方、英語版

「Barefoot Gen」を所蔵している中学校はゼロであり、二四校のうち一八校(七五%)から寄贈希望があり、大きな期待が寄せられました。

このため核戦争を防止する石川医師の会とプロジェクトゲンは昨年二月二日、山野義之金沢市長と浅香久美子金沢市教育長に英語版「Barefoot Gen」を平和学習の教材として、また英語教育の一助として、全ての中学校と市立図書館に配本することを要望しました。

金沢市	小学校	中学校
総数	59 校	42 校
所蔵あり	42 校	20 校
所蔵セット数	44 セット	日本語版 23 セット 英語版なし
寄贈希望校	日本語版 47 校	日本語版 14 校 英語版 18 校

2011年9月、金沢市教育委員会調べ

『はだしのゲン』—他言語との交流—

プロジェクト・ゲン代表 浅妻南海江

二〇〇一年、ロシア語版『はだしのゲン』全一〇巻を出版して以来、プロジェクト・ゲンは多くの出版社や翻訳者と関わりを持つこととなった。スペイン、フランス、オランダ、トルコ、クロアチア等その数は一六、七言語に及ぶ。

海外で読まれることで『ゲン』の価値は何倍も増す。この本を読んでヒロシマの実相を知った少年、少女達はどんなに驚くことであろう。海外でのゲンの活躍に思いを馳せ、一つでも多くの言語で出版されることを願っていた私達は作者中沢啓治さんの



ヤロスラブリ原爆展へウクライナ語(左から前列2人目)、中国語(右端)翻訳者と共に(右から前列2人目が筆者) 撮影は2007年11月

許可を得て、自ら作成した画像データや翻訳のため

に使用される『ゲン』の日本語版や英語版を提供してきた。他言語と交流することで今では手元に十数カ国語の『ゲン』を保有している。

二〇〇七年にタイ最大手のマティション社から出版されたタイ語版は、その直後に開催されたバンコク国際ブックフェアに出展された。メンバー四人がそのPRを兼ねて招待され、会場を訪れたシリントン王女にフランス語版のゲンを献上したことなど、通常では出来ない体験も他言語との交流の結果実現したものである。

二〇〇九年、英語版出版記念会の際には英語、ロシア語、中国語、朝鮮語、ポーランド語、ウクライナ語、タイ語、イタリア語各言語の翻訳者がヒロシマで一堂に会した。翻訳者は各々の言語でゲンの言葉「・・・世界中の国々もヒロシマ・ナガサキに感謝せんといいんわい！核兵器の恐ろしさを知ったんじゃけえ・・・」を読み上げた。核廃絶を願い、志を同じくする翻訳者達はまさに字のごとく同志である。

一人の同志は何万、何十万の読者にゲンのメッセージを伝えることが出来る。そして一人の読者が、たとえば三人、五人に『ゲン』を紹介することでその数は相乗的に増してゆく。この広がりは何んと素晴らしく、夢のあことであろう。やがてイランではペルシャ語が出版されることである。ゲンの訪れる国はアジア、アフリカなど、まだまだいっぱい残されている。ゲンよ頑張れ！

日本生活教育連盟石川サークル
第四七回石川冬の集会・記念講演

『フクシマに生き、フクシマを生きる』

講師 詩人・高校教師 和合亮一

二〇一一年一月二五～二六日に片山津温泉「ホテル森本」で開かれた集会の総括集から、和合亮一さんの記念講演実現に骨を折られた木村勝保さんの感想の一部を紹介する。

人間には自らを変えていく力がある

＝ 和合さんの講演を聴いて ＝

木村 勝保

和合さんが詩という形式で言葉を紡ぎ始めたのは、震災から六日目の三月一六日からである。

「本日で被災六日目です。物の見方や考え方が変わりました。行き着くところは涙しかありません。私の作品を修羅のように書きたいと思います。放射線が降っています。静かな夜です。」と発信している。五月二六日までの言葉を発した「詩の礫」は、内向きの自分を見つめた詩だと和合さんは言う。とことん孤独を知り、自分の無力を知り尽くすところしか人間の第一歩は始まらないのかも知れない。幸い多くの人が和合さんをフォローする言葉を返す中で新しい目覚めが始まる。「詩の黙礼」は、そんな中で作詩されていた。

「生きていること、感謝しなくちゃいけない。ありがとうございます。命をがんばります。暗闇で、ふるえて、家族みんな、手を合わせたことを。」

黙礼する。私は何がしたいのか。鎮めたい。何を？ たくさん失われた魂。悲しみ、絶望。私の言葉に、詩に、そのような力はあるのか。／

めざめのあとに、少しずつ、心は外へと向かっていく。極限の中にも、美しいものは美しさをかもし出している。人間の底力に出合う。人間の生活力が何であるかを見つける。和合さんはカメラで震災が潰した物を取り始める。ボイスレコーダーを持ってあらゆる声を集め始める。福島で生きる意味を考え始める。「詩の黙礼」は「詩の礫」を経て、新しい言葉へと変わっていく。

第三集「詩の邂逅」は、立ちこめる雲の切れ目の中の光と出合いの詩集として誕生する。七名の被災者との対話を通して、新しい地平へと踏み出した詩集。和合さんの短い問いに相手は心の中のためっていたものを思い切り語る。私は何人かの語りを讀んで涙がこみ上げてきた。対話さんは再生の始まりである。今仕事は



で涙がこみ上げてきた。対話さんは再生の始まりである。今仕事は

続いており、二五人に達したとのこと。被災者の悔しき、悲しき、つらさを代弁する語り部として、詩という言葉で紡ぐことを自分の使命と思い始めたのであろう。

人間は、自らを変える力を持っている。それは相手との対話という形において飛躍する。対話の中に、語り手の背後にある生活が鮮明に見えてくる。生活教育とは、そのことを指すのだと和合さんの震災後の心の歩みとその作品から知ることができた。

和合さんの対話の対象は、今どう切り開くかの人たちに軸足は切られている。悔しき、なぜ私達だけという問いから今までの生活を総括し始めている。身の丈に合った生活でいいのだとの切り替えは、本当に大切な生活への確かな一歩を踏み出している。

「南相馬の川に鮭が海から戻ってきていました。」自然の摂理の中で人間は生きていくしかない。自然と共に生きることを学んだと言って講演は終わった。（日本生活教育連盟石川サークル副委員長・賀九条の会代表）

◇雑誌『経済』一二月号を読んで◇
井上宏・著『現代アメリカのグローバル戦略』TTPP』

永山孝一

二一世紀初頭という時代は、九・一一アメリカ同時多発テロ事件に始まり、三・一一東日本大震災と東電・福島原発事故という未曾有の災禍をもって人類に記憶された。そしてこの間、私たちは憂慮すべき状況に遭遇している。それが「超・過剰資本」と「放射性廃棄物」であり、いずれも現代に至る人間

社会が生み出したものであるが、それらは現代科学技術をもってしても手に負えない性質の代物であり、また、両者には恐るべき共通点がある。

永遠の「利潤」追求と、永遠の「管理」

前者は永遠の「利潤」を求め、後者は永遠の「管理」を要求して止まない。ウラン半減期は四五億年という。万が一にもそれらの「要求」を疎かにすれば、直ちに破滅が訪れることは、「グローバル恐慌」の引き金となったリーマン・ショックやギリシャ・ユーロ危機及び、東日本大震災での原発事故報道を通じて私たちも学習してきたことである。

一方、累積された「超・過剰資本」ばかりか、今や「待機資本」までも巻き込んで、マネーゲーム的「資本の共食い」の餌食としている経済体制——いわゆる覇権主義的「グローバル経済」のアメリカでは一七〇〇兆円、世界全体では約四〇〇兆円にのぼる社会的資産が犠牲に晒されていると言われる。

日本でも「カジノ経済体制」が・・

世界大恐慌（一九二二年）の後、アメリカ合衆国でルーズベルト大統領のニューディール政策などを経て形成された「国家独占資本主義」体制、「ニクソン・ドクトリン」を経てレーガン政権による新自由主義的「小さな政府」体制などを通して、自ら招いた「超・過剰資本」。それは、「活用」できなければ「破綻」に至ることは明らか。デフォルトを避けるためには「負荷」の「分散」が必須であり、グローバル経済市場の拡大強化によって、擬制資本金融商品ばかりか、日本でもTTPP（環太平洋連携協定）、消費税増税、社会保障と税の一体改革など、国民の生活と産業に破滅的な犠牲を強いる「カジ

ノ」経済体制が推進されようとしている。

このところ、観光石川を誇ってきたわが県の温泉地の近況を見るにつけ、新たな「価値の生産」を伴わない「経済」と日本の進むべき道に思いが至る。

新たな「価値の生産」を伴わない「経済」の行方

新たに温泉旅館を造ることなど尋常とは言えない時世となったこの日本において、それでも温泉に付きたい（価値の取得）という欲求を商機に結びつけるには、今や「やり場」のなくなった余剰資金（遊休過剰資本）を活用して、これまで湧き出していた（生産されていた）温泉の株や遊休施設を入手し、自らの温泉（商品）として販売するしか、それを「生かす方法」（生き延びるすべ）はない。そして、その行き先には「カジノ経済」とそれに続く破綻（末世）がある。

井上宏氏は「むすびにかえて」で、現代日本経済の課題として——現代アメリカ覇権主義的「カジノ経済」体制への加入は「自殺行為」に等しいと言わざるを得ない。日本国民と産業が生き残れる道は唯一つ、アメリカが展開する「資本の共食い経済」から身を引き、自立した社会の建設を進めている国々、例えば、二二〇カ国以上を組織する非同盟諸国会議や、マネーゲームではなく実体経済的發展を遂げているBRICSなどと協調しながら、日本国民自らの共同の力で、新しい日本社会を構築していくことである——と述べている。

（金沢建築とまちづくり研究所）

日本平和大会代表派遣募金のお礼

日本平和大会より、沖縄の代表派遣募金は、会報一六一号で報告しました後にも三人よりあり、合計一人・四万八千五百円寄せられました。心よりお礼申し上げます。

オール沖縄の今は・・・

沖縄県は新基地建設予定地辺野古沖の「環境影響評価書」を受理し新段階に来ております。

民主団体等は「知事意見書」に県民意思を反映するため情報の公開を求め、県は約束をしています。

そんな中二月五日告示一二日投票で宜野湾市長選挙がたたかわれます。県民総意の「県内に新基地をつくってはならない」と強く訴える伊波洋一前市長と自・公推薦の候補との一騎打ちの見通しです。六月には沖縄県会議員選挙も予定されております。

詩人会議かなざわ「独標」より

心折れないで！

独標同人 山口修治

もう戻れない 町ごと移住しよう

なんとしても早く故郷に戻りたい

あの日から八ヶ月近くたつが

いまだ収束の見通しもたない中で

県内と全国に町ごと避難している民(たみ)から
相反する切羽つまった声が長(おさ)に届く

賠償を補償と偽る電力会社と国

その人たち相手に果敢に挑戦していききたい

心折れそうになるけれど

みなさんの励ましを支えに生きぬきたい

『なくせ原発一〇・三〇大集会 IN 福島』

県内と全国から集まった僕ら一万人を前に

決意を語る長

青空と一万人の拍手と

そして

「頑張ろう！」のかけ声が長をつつんだ

「和定例句会報」より

宿題「干渉」

星 啓 選

クリントンTPP乗っ取り口を出し

茂明

もの言わぬカネが政治に口を出し

迷天使

胃袋がアメリカ干渉受け付けない

和子

口は出すしかし財界金出さぬ

林

アメリカの国益先だとTPP

大峰

坂の上干渉合理化軍拡張

茂明

アセアンの火種捜しに嘴入れる

一杜

佳作

干渉し侵略になだれ込んだ過去

迷天使

アメリカの干渉議定書放り投げ

大峰

干渉に礼金はずむ独立国

林

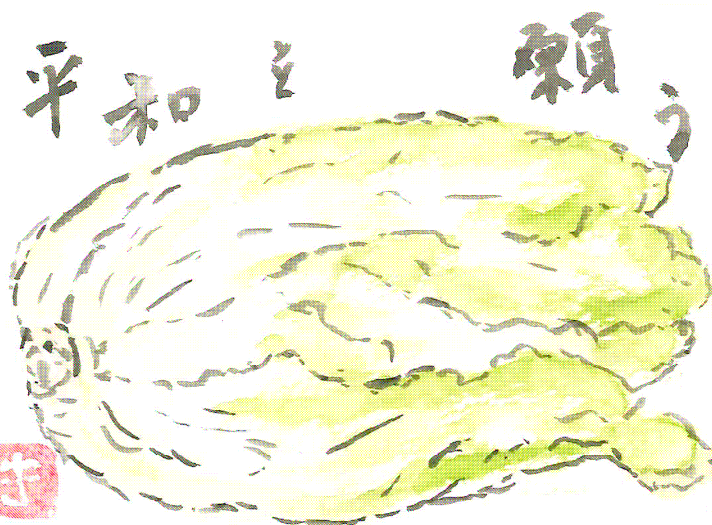
軸

蔑みに沖縄憤怒の島に変え

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

中山清子



冬のはくさい

《非核平和・行事予定》

- ・一月二九日(日) 一時～一五時：北陸原水協学校・講演「福島原発事故と人の生き方について」(中島哲演・小浜市明通寺住職)、「進む国際政治と草の根運動の進展」(佐竹康之・日本原水協事務局次長) 富山市サンフォルテ
- ・二月三日(金) 一八時：「二〇一二年世界と日本の経済展望」友寄英隆経済評論家・元雑誌「経済」編集長・近江町交流プラザ第一研修室・主催石川県学習協「資本論」学習運営委員会
- ・二月九日(木) 一二時半：核廃絶街頭署名行動・Mザ前
- ・二月十一日(土) 一三時半～一六時：「建国記念日」反対平和と民主主義を考える集い・講師：東孝二石川憲法会議代表委員／子どもと教科書石川ネット二一代表・金沢勤労者プラザ四〇六号室・主催石川憲法会議／子どもと教科書石川ネット二一／オプザーバー石川県宗教者平和協議会
- ・二月二十二日(日) 一三時～一六時：税と社会保障一体「改革」学習討論集会・講演「社会保障と税の一体改革」講師：横山寿一金沢大学教授／「消費税増税の問題点、憲法の立場からの財源論」講師：浦野広明立正大学客員教授・各分野からのアピール・労済会館ホール・主催：石川県社会保障推進協議会／消費税廃止各界石川県連絡会
- ・二月一九日(日) 一〇時～正午：石川県保険医協会第三八回総会記念講演「放射線の健康障害Ⅱ内部被曝について考える」講師：矢ヶ崎克馬琉球大学名誉教授・ホテル金沢四階エメラルド
- ・二月二六日(日) 一三時半～一六時：「障害者総合福祉法の骨格提言を学ぶ学習会」講師・西村直きょうされん理事長・石川県社会福祉会館四階中ホール・主催きょうされん石川支部
- ・二月二十八日(火)～三月一日(木)：被災五八年三・一ピキニデー原水協集会／静岡市・墓参行進／焼津市
- ・三月三日(土) 一四時：わらび座六〇周年記念作品「アテルイ 北の耀星」・金沢文化ホール・主催わらび座「アテルイ」を楽しむ会TEL〇九〇・六二七三・四一四
- ・三月六日(火) 一二時半～核廃絶街頭署名行動・Mザ前
- ・三月十七日(土) 一三時半～原水爆禁止石川県協議会総会・石川県学習会館
- ・三月二十三日(金) 一四時と一八時一五分：前進座公演・邦楽ホール・主催前進座見る会
- ・四月一日(日)：「第三回ふくしまのつどい」ほんとうのそらを」・金沢市民芸術村・主催ふくしま311・石川結の会
- ・四月九日(月) 一二時半：核廃絶街頭署名行動・Mザ前
- ・五月九日(木) 一二時半：廃絶街頭署名行動・Mザ前
- ・六月六日(水) 一二時：核廃絶街頭署名行動・mザ前
- ・六月一〇日(日) 一四時～一六時：第三回核兵器廃絶記念デー・ウクライナの歌姫「ナターシャ・グジューコ」コンサート&被曝証言を聞く会 石川県教育会館三階ホール・主催核戦争を防止する石川医師の会
- ・六月一七日(日) 一四時～一六時：カンタータ「悪魔の飽食」第二三回全国縦断コンサート石川公演と森村誠一×池辺晋一郎両氏のトーク・主催／石川公演実行委員会・県立音楽堂コンサートホール

《編集後記》

◎私ごと。検便に潜血があり、カメラ検査の結果直腸に癌が発見された。手術前の詳細な検査後、一二月に手術をした。先生の「肛門は残るから良かったね」の言葉の重さも理解出来なかった。大腸の仕組みや働きを学ぶ。乳癌・胃癌の手術をし、肺の抗癌剤治療をしている知人の奥さんがいる。そのたびに不死鳥のように元気に仲間の前に現れてくる。病氣とたたかう心得を聞いたら、「うつ」にならないこと。対策は「外へ出かけること」のひと声だった。不完全復帰ですがよろしくお願ひします。(へ)

◎井上英夫代表は年頭の挨拶で、「非核の政府を求めめる私たちの平和的生存権保障の運動と、『貧困』に対する福祉国家、そして人権としての社会保障確立のための運動は一体のものといえるでしょう」と述べて、『福岡高裁勝訴判決』がピンチとなっている今、広く「人々に生存権裁判の意味を訴えて下さい」と呼びかけています。また『なくせ原発一〇・三〇大集会 in 福島』から山口修治・独標同人の『心折れないで！』の訴えなど、多彩なご報告・ご寄稿をいただきました。

『非核・いしかわ』は、「まさに、軍事国家・ファシズム国家か、福祉国家・民主主義国家か、が問われている」今年も、会員を中心とした地域の非核・平和を求める運動の『広場』となるよう会報の編集・発行に務めていきます。会員をはじめ読者の皆様、ご協力のほどを！(こ)